

第 25 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：平成 31 年 1 月 30 日（水） 14：00～15：30

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第 2 大会議室

1. 次期研究開発計画について

NDF から、次期研究開発計画について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 燃料デブリ取り出しに当たっては、取り出しに必要となる機器及び設備の開発に関し、安全確保のための評価等も踏まえた内容とするべきである。
- 現在実行中あるいは終了したプロジェクトについて、実用化の観点から評価を実施して、その評価を今後の研究開発計画の策定に活かすことが重要である。
- 基礎・基盤研究についても、現場の状況を踏まえた応用目的のプロジェクト・オリエンテッドな研究開発も今後は実施していったほうが良いのではないかと。現場ニーズを反映するために、研究関係者が現場とコミュニケーションする機会を増やすことが重要である。
- 研究開発課題の抽出・検討にあたっては、研究開発として行っていくべきものと、事業者が実施する廃炉の作業として行っていくものとの整理・分類していくべきである。

2. 1 号機 PCV 内部調査の準備状況について

東京電力から、1 号機 PCV 内部調査の準備状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 装置のモックアップ試験において、通常の状態だけでなく、現場でのトラブル等を想定した試験条件についても実施するべきである。
- 作業環境の監視において、ダスト濃度の監視に加え、作業環境の空間線量の変化にも注意を払う必要がある。
- 調査を行う際には、当該調査自体への支障にならないことを前提として、将来の検討に役立つような必要な現場のデータもできる限り収集することを検討するべきである。

以上